



## 第6回常任理事会

**日時** 平成29年6月13日(火)18:00～19:33  
**場所** 北海道医師会館9階・理事会室  
**出席者** 長瀬会長、深澤・藤原・小熊各副会長、北野・三戸・目黒・藤井・橋本・水谷・山科・岡部・伊藤・生駒・後藤・林・笹本・櫻井各常任理事、津田・藤瀬各監事(事務局：安達局長ほか13名)

### 協議事項

**第1号 母体保護法指定医師審査委員会委員・不服審査委員会委員の委嘱に関する件(三戸常任理事)**  
 母体保護法指定医師審査委員11名、同不服審査委員7名を委嘱することを決定。

**第2号 北海道高齢者保健福祉計画・介護保険事業支援計画検討協議会委員の推薦に関する件(三戸常任理事)**  
 藤原副会長を推薦することと決定。

**第3号 母体保護法指定医師の指定に関する件(三戸常任理事)**  
 審査委員会で指定可とされた、新規申請者1名を指定医師とすることと決定。

**第4号 日本医師会生涯教育講座等の認定に関する件(櫻井常任理事)**  
 申請のあった日医生涯教育講座52件、道医認定生涯教育講座80件の計132件を承認。

**第5号 第3回理事会〔6月17日(土)〕の議案に関する件(三戸常任理事)**  
 6月17日(土)に開催する第3回理事会の提出議題を決定。

### 報告事項

**1. 各国におけるヘルスデータベースの現状と課題に関する国際会議〔5月13日(土)・東京都〕について(山科常任理事)**

本国際会議は、昨年10月に開催された世界医師会(WMA)台北総会において「ヘルスデータベースとバイオバンクにおける倫理的考察に関するWMA台北宣言」が採択されたことを受けて日本医師会館で開催されたものであることを小職から報告した。参

加者は約230名であった。

**2. 第1回全国メディカルコントロール協議会連絡会〔5月26日(金)・東京都〕について**

(目黒常任理事)

第1部は「救急医療提供体制を構築する場としてのメディカルコントロール協議会」をテーマに全国メディカルコントロール協議会連絡会・行岡会長から基調講演が行われた。引き続き、第20回日本臨床救急医学会総会・学術集会・坂本会長の特別講演と「東京都医師会が目指す高齢者救急の今後の姿」「熊本県のメディカルコントロール体制の現状」についてトピック2題の発表があった。第2部は各団体の取り組みとして4名(日本臨床救急医学会、海上保安庁、総務省消防庁、厚生労働省医政局)から報告・情報提供が行われた。参加者は約600名であった。

**3. 第20回日本臨床救急医学会総会・学術集会〔5月27日(土)～28日(日)・東京都〕について**

(目黒常任理事)

帝京大学医学部・坂本主任教授が学会長となり「明日を支える救急医療」をテーマに開催された。会長講演、特別講演2題、合同教育講演、教育講演3題、救急科領域講習3題、国際シンポジウム、合同ワークショップ、合同講習会、合同セミナー、フリートーク、シンポジウム12題、パネルディスカッション17題、ワークショップ9題、一般演題が行われた。参加者は約3,239名であった。次回は平成30年5月31日(木)～6月2日(土)、愛知医科大学災害医療研究センター・中川教授が学会長となり、名古屋国際会議場で開催される。

**4. 日医かかりつけ医機能研修制度 平成29年度応用研修会〔5月28日(日)〕について(小熊副会長)**

(1)かかりつけ医の質・医療安全(2)認知症(3)フレイル予防、高齢者総合的機能評価(CGA)・老年症候群(4)かかりつけ医のリハビリテーション(5)かかりつけ医の在宅医療・緩和医療(6)症例検討の講義6題を行った。日医での受講者は239名、またテレビ会議システムにより44都道府県から約6,900名の事前登録があった。当会では、昨年度定員を大幅に上回る申し込みだったため、希望者全員が受講できるよう2会場設置し、148名が受講した。

**5. 第7回ワークショップ「会員の倫理・資質向上をめざして」〔6月2日(金)・日医〕について**

(橋本常任理事)

大分県医師会・小野常任理事から「人生の最終段階における医療の課題」、文部科学省高等教育局医学教育課・佐々木企画官から「卒前における倫理教育」と題する講演が行われた。引き続き、参加者を7グループに分けて、ケーススタディとして「高齢者の自動車運転と医師の役割」「急逝した患者－死亡診断書と医師の役割」の2事例に関して議論を行った後、各グループからの発表および全体討議が行われた。参加者は73名であった。

## 6. 第1回勤務医部会運営委員会ならびに若手医師専門委員会〔6月3日(土)〕について

(藤井常任理事)

今年度全国医師会勤務医部会連絡協議会〔10月21日(土)・札幌市〕のプログラムならびに関係スケジュールと若手医師専門委員会が実施している世代間ギャップ・アンケート調査の結果について報告した。協議では、今年度の活動方針を検討し「新専門医制度の地域医療への影響について」「勤務医の働き方改革について」「勤務医のキャリア形成について」を大きな柱として考察していくこととした。

## 7. 日本医療機能評価機構 患者安全推進地域医療フォーラムin旭川〔6月3日(土)〕について

(水谷常任理事)

旭川赤十字病院2階の講堂で120名が参加して実施され、近畿大学医学部・辰巳教授から基調講演が行われた。ポジティブインシデント報告をすることにより、人間の持つ臨機応変さと柔軟な対応がさらに磨かれることや医師自らのインシデントレポートの提出率がアップした事例が発表された。シンポジウムでは、地域ぐるみの医療安全対策と題して、事故発生時の対応や二次的被害の防止などについて活発な意見交換が行われた。

## 8. 産業保健活動推進委員会〔6月5日(月)〕について(生駒常任理事)

小職より委員の一部変更と昨年度の産業保健各種研修会の実施状況、日医産業保健委員会の検討内容について報告の後、今年度の産業保健研修会(4回)とメンタルヘルスセミナー等の講師を決定した。その後、清田委員より北海道労働保健管理協会が実施している「ストレスチェックや面談指導を実施した上での疑問や課題」をテーマとした産業医実務研修会について報告があった。

## 9. 医療安全倫理・モラル研修会〔6月11日(日)・東京〕について(水谷常任理事)

「医療安全管理者からみた医療倫理教育のあり方について」と題して、第一講義では順天堂大学・小林教授、第二講義では中京大学法科大学院・稲葉教授からそれぞれ講演が行われた。医療は、間違っただけで患者に影響がなければ、その事実を患者・家族に伝えられないなどのモラル(倫理)の問題が内在し、ミスが起きるときは余裕がない時や環境が悪い時、自信がない時である。また、終末期医療における患者本人の推定意思と家族の意思は共通ではないという中での医師の行動規範など興味深い事例が示された。参加者は284名であった。

## 10. 外部各委員会報告

### (1) 北海道障がい者施策推進審議会〔5月26日(金)〕について(藤原副会長)

障がいのある方の意思疎通支援や、手話が言語であることに係る条例整備を検討してきた意思疎通支援部会の中間報告があった。部会設置

の経緯や条例の形式等の説明があり、現段階では各委員の共通理解が得られていない状況にあるとの報告があった。また、外見からは分かりにくい障がいに関するマークの普及についての全国および道内の検討状況や、障がい福祉計画等の策定スケジュール等についてそれぞれ報告があった。

### (2) 北海道防災会議〔5月30日(火)〕について(長瀬会長)

北海道地域防災計画(本編および地震・津波防災計画編、原子力防災計画編)や北海道水防計画等の修正について事務局から説明があり、修正内容について了承した。次に今年度北海道防災総合訓練について協議し、今回は札幌直下型地震を想定した訓練を2回に分けて実施することとした。その後、地震津波防災対策の取り組みや今年度北海道原子力防災訓練の実施等について報告がなされ、出席した各団体からは防災に関する取り組みについて報告があった。

### (3) 第1回北海道がん対策基金運営委員会〔5月30日(火)〕について(藤原副会長)

委員長に小職、副委員長に北海道がんセンター・近藤院長が選出された。昨年度の助成事業として4団体5事業を認定し、本基金の積立状況等と事業実績について承認した。そのほか、本基金に対する自販機設置等による高額寄付など、特に貢献のあった企業等に対し、基準を設け感謝状を贈呈することについて承認した。

### (4) 北海道国民健康保険運営協議会〔5月30日(火)〕について(笹本常任理事)

国民健康保険の運営主体が市町村から北海道になることにより、同一給付でありながら負担が均等ではない現状から多方向からの検討が必要であるとの説明があり、市町村の納付額について報告が行われた。今後の予定としては6月19日の定例道議会に報告し7月上旬には運営方針が決定される。10月中旬には国保関連条例が制定されることになる。

### (5) 北海道医療勤務環境改善支援センター運営協議会〔5月31日(水)〕について(藤井常任理事)

昨年度の事業実績については、個別相談支援件数が順調に伸びていること、医師会と共催で開催した勤務医の勤務環境改善支援セミナーなどの報告があった。今年度の事業計画では、医師事務作業補助者要件32時間研修のDVDトレーナー養成研修の開催、医療機関への勤務環境改善アンケート調査の実施、職員満足度(ES)調査の実施など今年度の重点施策について協議し、勤務環境改善に向けた普及啓発に努めることとした。

### (6) 北海道医療対策協議会「第19回地域医療を担う医師養成検討分科会」〔5月31日(水)〕につ

いて（小熊副会長）

北海道より、第7次北海道医療計画の中に記載すべき医師の確保に関する事項について、医師偏在解消の具体的な方策を検討するため、ワーキンググループ・「地域医療を担う医師の確保に関する検討委員会」を新たに設置することを承認した。

(7) 北海道医療対策協議会「第1回地域医療を担う医師の確保に関する検討委員会」〔6月8日(木)〕について（小熊副会長）

本委員会は、5月31日に開催の同協議会検討分科会の決定により設置されたものである。「養成と配置」をテーマとし、北海道大学における地域枠制度の導入、中核病院に医師を集中させ、そこから医師不足の地域へ派遣するシステムの構築、診療科の選択にあたって、不足している診療科を選択するよう教育現場で誘導できるような何らかの方法の検討、各地域の医療必要度を様々なデータを活用して分析することなど、意見交換を行った。

(8) 北海道社会福祉審議会定例会〔6月8日(木)〕について（長瀬会長）

今年度保健福祉部重点施策と予算の概要について説明があった。続いて、昨年度の民生委員審査専門分科会他2専門分科会の審査状況や、地域福祉支援計画専門分科会の審議状況についてそれぞれ報告があった。

11. 各部報告

(1) 当会の医療事故調査等相談窓口対応状況および当番体制の変更について（水谷常任理事）

5月9日から6月12日までに、標記相談窓口において当番の役員等が直接対応した案件が無かったことと、当番体制について、6月19日から、役員による輪番制を廃止し、医療安全・医事法制部長が対応する体制を基本とすることを報告した。

(2) 地域医療構想調整会議について

（笹本常任理事）

地域医療構想調整会議の設置要綱・運営要領の一部改正の内容について、小職より報告した。なお、全道21圏域の状況について事実確認を進めることとなった。

12. その他

(1) 第150回臨時時代議員会「当面の医療政策」について（笹本常任理事）

総論を含む5つのテーマが決定したことを小職より報告した。

道総医協関連事項（深澤副会長）

1. 総医協に係る日程〔7月7日(金)運営委員会、7月11日(火)総会・各専門委員会〕について（深澤副会長）

運営委員会、総会および各専門委員会の開催日程

等について、小職より報告した。

## 第8回常任理事会

日時 平成29年6月27日(火)18:00～19:08  
場所 北海道医師会館9階・理事会室  
出席者 長瀬会長、深澤・藤原・小熊各副会長、北野・三戸・藤井・橋本・水谷・山科・岡部・生駒・後藤・笹本・櫻井・青木各常任理事、藤瀬・篠島各監事  
(事務局：安達局長ほか13名)

### 協議事項

第1号 役員会務分担に関する件（長瀬会長）

14部の部長、副部长および各部の担当役員を決定。

第2号 日本医師会医療情報システム協議会運営委員会委員の推薦に関する件（三戸常任理事）

長瀬会長と藤原副会長の2名を推薦することと決定。

第3号 北海道の医療機関における電波利用推進協議会委員の推薦に関する件（三戸常任理事）

青木常任理事を推薦することと決定。

第4号 北海道高齢者虐待防止推進委員会委員の推薦に関する件（三戸常任理事）

水谷常任理事を推薦することと決定。

第5号 母体保護法指定医師の指定に関する件

（三戸常任理事）

再審申請者2名について指定医師とすることと決定。

第6号 日本医師会認定産業医の認定申請に関する件（生駒常任理事）

認定要件を満たした新規申請者5名と更新申請者98名を承認し、日医へ申請することと決定。

第7号 日本医師会認定産業医の認定申請に関する件（生駒常任理事）

認定要件を満たした新規申請者1名、更新申請者2名を承認し、日医へ申請することと決定。

第8号 日本医師会生涯教育講座等の認定に関する件（櫻井常任理事）

申請のあった日医生涯教育講座23件、道医認定生涯教育講座33件の計56件を承認。

第9号 北海道医師会館中長期保全改修工事の契約に関する件（北野常任理事）

工事施工期間ならびに委託業務報酬について、大成建設株式会社札幌支店と契約することを承認決定。

第10号 その他

(1) 7月行事予定に関する件（事務局）

### 報告事項

1. 平成29年臨床研修病院合同プレゼンテーション 東京〔6月11日(日)〕について（櫻井常任理事）  
エムスリーキャリアが主催し、参加の臨床研修病

院を小規模にすることで、1病院あたりの来場者数を多くすることを目的としており、北海道として初めて参加した。全国からは67施設、道内からは12施設の病院が参加した。来場者総数は医学生、研修医あわせ292名であり、道内ブースには202名が来場した。

## 2. 北海道受動喫煙の防止に関する条例（案）意見交換 [6月13日(火)] について（後藤常任理事）

北海道受動喫煙防止条例の制定を目指すがん対策北海道議会議員の会の条例検討委員会が、当会が参画している北海道たばこ対策連絡協議会と、条例の原案について意見交換を行った。1. 禁煙、分煙の徹底で受動喫煙を防止すること 2. 禁煙か否か、喫煙所の有無等を表示し、利用者はその表示で選択すること 3. 喫煙者は受動喫煙の原因になる行為と自覚し生じさせないように努めること 4. 条例を守らなかった場合の罰則はないことが原案の骨子である。北海道たばこ対策連絡協議会を構成する各団体からは、条例制定後の各施設の達成度を再評価するような仕組みを構築すべき等の意見が出た。

## 3. 医学生・若手医師キャリア形成支援検討会 [6月18日(日)] について（藤井常任理事）

道内に在住する医学生・若手医師が集まり、セミナーの企画・運営を自らが行い、そのための意見交換を通じて課題を検討することを目的として開催した。医学生・若手医師など25名の参加があり、日本医師会ジュニアドクターズネットワーク(JMA-JDN)のメンバーと当会勤務医部会若手医師専門委員会委員も参加して、働き方、キャリアの悩みや、当会主催の医学生・若手医師のキャリアデザインセミナーのアイデアや企画案をワールドカフェ形式のワークショップとして行った。

## 4. 第140回日医定例代議員会 [6月25日(日)] について（深澤副会長）

横倉会長の挨拶と日本医学会の門田守人会長の挨拶の後、中川副会長より平成28年度日本医師会事業報告があり、その後、第1号議案・平成28年度日本医師会決算の件が上程され、今村副会長により提案理由の説明の後、財務委員会の結果報告が橋本財務委員長より行われ承認された。次に、第2号議案・平成30年度日本医師会会費賦課徴収の件が上程さ

れ、今村副会長より提案理由の説明の後、承認された。その後、代表質問8件・個人質問13件の質疑が行われた。北海道ブロックからは、代表質問として藤原代議員より『地域医療構想における急性期指標について』、個人質問として小熊代議員より『地域包括ケア病棟（床）の運用について』、上村代議員より『臨床実習研修の再編と医師養成過程の根本的な再検討—新たな専門医制度に先立ち、日医の積極的な提言を』の質問を行った。

## 5. 日医理事会報告（長瀬会長）

「いい医療の日」や日本医学会役員選挙の件等の報告と、平成29年度日本医師会医療情報システム協議会運営委員会委員委嘱の件等につき協議した。理事会の詳細については日医ニュース等を参照されたい。なお、事前の理事打合せにおいて、会員情報登録「メールアドレス」の扱いについて、日本医師会としてBlood Rotation Systemの導入検討の要望等についての意見交換を行った。

## 6. 外部各委員会報告

### (1) 北海道障がい者施策推進審議会第2回医療的ケア児支援部会 [6月14日(水)] について

（三戸常任理事）

はじめに、障害福祉計画および障害児福祉計画に係る国の基本指針について報告があった。その後、第5期北海道障がい福祉計画の策定ならびに北海道の医療的ケア児支援施策について協議し、次回から具体的な方策を検討することとなった。

## 7. 各部報告

### (1) 地域医療構想調整会議について

（笹本常任理事）

昨年6月より各圏域の地域医療構想調整会議の設置要綱・運営要領の一部改正が進められていることについて、小職より経過報告を行った。

## 8. その他

### (1) 北海道医師会会員名簿の広告掲載について

（三戸常任理事）

今年度は当会会員名簿の発行年であり、広告につき各社に掲載依頼をしたところであるが、常任理事会メンバーに、企業等への働きかけについて、協力を求めた。